

Angle (アングル) 再訪 わたしたちの「聖地」永昌院 牧内雪彦 表2
 「稲穂」第14号の発刊にあたって あらためて「稲穂」について 佐々木康夫 2
 「わたしの人生」 ポジティブに動けば道が開ける 唐澤佳良 4
 「いま第一線」 歴史を証言するジャーナリストとして 矢高則夫 8
 健康は「はかる」ことから始めましょう！ 龍口知子 12
 いつのまにか、スポーツジャーナリスト 折山淑美 16
 「言語」を駆使して多様な社会で生きていく 小澤純子 20

●フレッシュトーク 神藤駿介／松澤創一郎／富田開登 24

●写真特集 写真でたどる飯田高校のいま／むかし 30

●55歳のつぶやき 高32回生10人のつぶやき 34

●55歳のつぶやき 人との触れ合いを求めて 森本忠則 38

●55歳のつぶやき 55歳は自然体で、マッハで行く！ 北原功雄 40

●平成28年度在京同窓会報告

銀座NAGANOから見てきた地域活性化のヒント 熊谷晃 42

会場写真

■今号の表紙作家 人間万事塞翁が馬、陶芸万事塞翁が馬 樽沢泰文 48

■あのころの夢 立教大学18年ぶりリーグ優勝に思う 熊谷春一 53

■まだまだ現役) いつしか日本三百名山を目指すことに 桐生鉄男 54

人形浄瑠璃に魅せられて 林一彦 56

■インタビュー こりこりと38年 木の中の「仏さん」と向き合って 清水弘志 60

●文芸の広場 ◇短歌 岡村隆臣／奥村晃作／長沼節夫／草田照子 64

◇俳句 稲垣隆俊／長沼末廣／古畑恒雄 68

◇川柳 安原明／宮下恭一／下島明 70

みんなの川柳(投稿作品より) 71

「われら同志会」 「高松台」く首都圏高七会情報交歓便りく 金田明夫 72

「同期会便り」 どんどんつながる「川越の会」 池田正明 74

平成29年度在京同窓会のご案内 76

編集後記 78

『稲穂(とうすじ)』とは：
 昭和16(1941)年に飯田中学で刊行され
 ていた格調高い『稲穂學報』に因む。

表紙作品 樽沢泰文(高24回)

OKINAWA

「OKINAWA」は、瀬戸半磁土を用いた30体のハイビスカスで構成。制作の動機は「平和のための戦争」を世の政治家が唱えるようになってしまったことや、個人の尊厳がそのために奪われつつあることへの不安、とりわけ戦中、戦後70年と日本の「平和」のために犠牲になってきた沖縄に学んでほしいという思いを、このハイビスカスに託した。テロや戦争のない平和な世界の実現を表現者として切に願っている。
 (松川町の練竹村工業・竹村氏が所有)

装丁 酒井 崇(高49回)

題字「稲穂」 高田墨山(高7回)